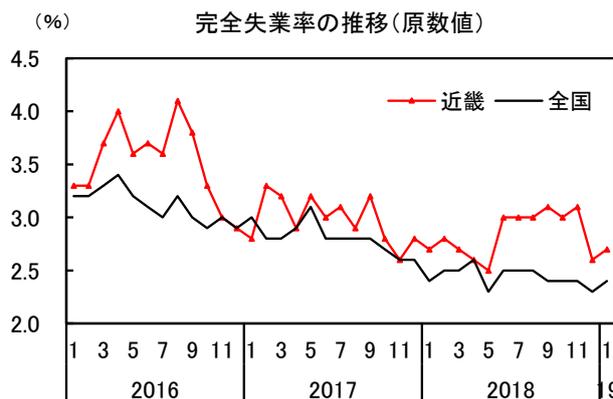
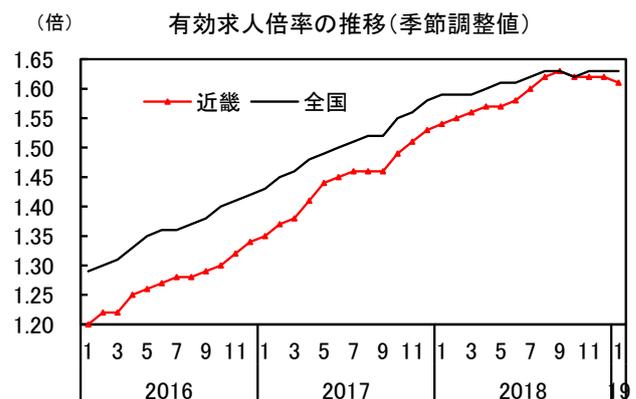


関西の景気ピックス【雇用関連（19年1月）】

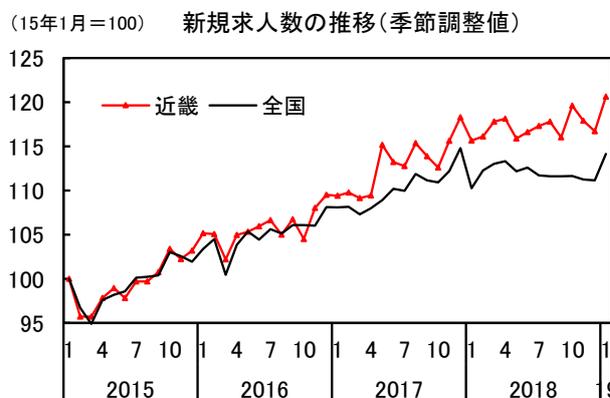
- 19年1月の労働力調査（総務省）によると、近畿の完全失業率は2.7%（原数値）と、前年比で横ばいの推移となっている。変化の内訳は、就業者数が前年比で14万人増え、失業者は横ばい、非労働力人口は14万人減少した。就業者数は長期的な増加傾向が続いている。
- 一方、近畿の有効求人倍率（厚生労働省）は、18年12月は1.61倍（季節調整値）と前月比で0.01ポイント低下した。低下は3か月ぶり。ただし、1.61倍という水準は、1974年5月以来（1.63倍）の極めて高いものである。
- 近畿の失業率は低い水準が続き、有効求人倍率も1.6倍台の高水準にあるなど、雇用情勢は概ね好調といえる。ただし、賃金では定期給与の伸び率の低下がみられるほか、求人倍率の伸びも鈍化がみられるなど、必ずしも楽観はできない。



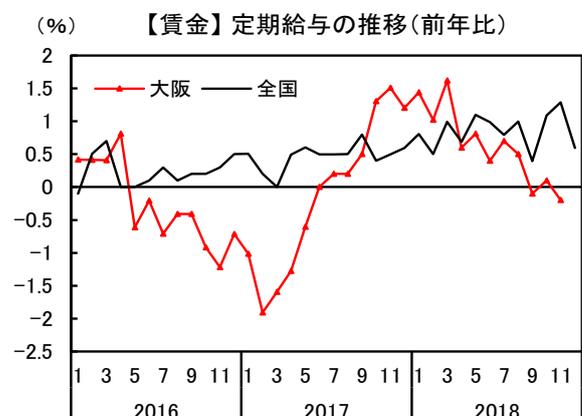
(出所)総務省「労働力調査」



(出所)厚生労働省「職業安定業務統計」



(出所)厚生労働省「職業安定業務統計」



(出所)厚生労働省「毎月勤労統計調査」

本件照会先:大阪本社 荒木秀之
 TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp